

の回際的影響力は倍加されるだろう。そしてこれらすべては回際
命運動の中にスターリン主義から解放された世界革命を目指す部
隊が、はじめにソヴィエト官僚制打倒をもそのスロカララに含むと
なる世界プロレタリア革命の開始と現実的展望とすることができ
るのだ。

①トロツキー・ドスマティスムの二つの派別

的代々木スターリン主義派との死闘にいられた一四回大会に
おける我々の勝利に特殊な困難を加えたエロソード的要素に、ト
ロツキー・ドスマティスムの暗躍があった。オ四回大会に日本支那連
盟として発足した五八年一月に二つに分裂して今に至るまで
「トロツキー・ドスマティスム」革命的共産主義者同盟と回際主義共産党がそ
のあり、特に一三回大会に於て、全学連の中枢部を掌握した華共
との斗争は、代々木打倒の過程で我々が果敢にねばらぬ一
つの課題であった。だが結論的にいふならば東西に歴史をもつたこ
れらの流連の活動は、代々木との斗争の敗北のみに結果し、京都に
おいて、大阪において、代々木スターリン主義者に道を譲り、学生
陣から追放されたのである。

華共同と我々の間には、去年の一二日以来激しい論争の過程があ
った。世界革命の回際組織結成の活動に於けるオ四回大会の評価
、オ四回大会の基本綱領である過渡的綱領の評価、世界革命の過
渡的のソヴィエト官僚制打倒の課題をどうとらえるか、華共と我々
とを兼てトロツキーの活動とその理論を批判的に、放棄主義的
に継承するか又は、それを批判的にとらえ克服しつゝ前進するかを
めぐって多くの論争が展開された。だがこの論争は四、五月の学生
運動の實踐的方針の提起とその物變化の過程で實踐的結論を与えた
即ち労働運動の方針に於ける合理化反対斗争の、安保斗争と対置
しての強調、政治斗争の軽視、労働運動が危殆的狀態にあるが果敢
上昇をくらえて改良の斗争が特殊に重要だ、という労働運動の現実
を知らぬナンセンスな議論。

学生運動に於いては、去年の我々の前進の過程に伴った若干の困

難、誤りに対する清算主義的評価、軟弱態度の自己批判とその
裏返しとしての学生意識状況に追随した行動方針の提起という右傾化
、「労働者階級の斗争が後退し学生意識の全体的な停滞がある」とい
う局面では、全幹として斗争体制の整備、即ち、主要な議論にな
っている今、「後退期の学生運動に一種主義的斗争指針を提示す
る」とことに反対し、「後退期における体制整備への手段として」
「学園における学生の権利、生活の爲の斗争」の採用を断り強調
する。(『社共同五反対派後成宣言』)こうした学生運動論の實踐
的結論は、

①「それは上野局面における暫行だ、一揆主義としてストラ
イキ、その他の明確な、断固たる斗争形態をとることに反対す
る。」

②「学生運動の転換の大衆化、イデオロギー活動の重要性を口で強
調しながら、明確な方針を提起しその下に大衆斗争を組織する
ことを放棄する。一例えば学生大会でいかに斗争か、安保を阻
止するために何事でも専断を認めるのではなく、学生運動論を
を長々とぶつ、正。」

③「後退期と整理主義的、固執的に現状を規定し、「体制整備」の
必要を強調するへ同時に此種斗争、改良の斗争性の強調すること
によって、全回的政治斗争を回避する。」

このように学生運動の方針によって指導された部分に於いて、「
平和と民主主義」のスローガンの下にエネルギッシュに大衆を激
発しようとする積極的改良派、あるいは至極主義を徹底して、大
衆に追随する所感案に大衆を奮われ、自治会の指導権を奪取され
たのは当然の結果であった。全学連大会に於いては、この派の人
々の論議案、あるいは発言のほとんど全てが代々木派に改良のア
ン足どりの材料を与えたことは、見逃し難いである。中向労働運
動であり民主主義的運動としてある学生運動を革命的な前進を導
くことによつてかちとる全学連運動中の巨大な前進的運動論
論と大衆運動を提議的に結合し、このようにしてエセ革命性、等々に

この理論的感産と只に實踐的にも感産し、代々木に道を閉じ
て終ったのである。我々は、この期間、特に京都、東京において斗
争の組織のために彼等との激しい論争を行わねばならぬが、京都
今や、その中向主義的性格の故に学生運動中にその有力な影響力を
すでに失った華共同との斗争に終止符をうち、我々の主要な不便敵
天の敵代々木スターリン主義者との斗争に全力を尽くさねばならぬ

我々は四、五月斗争、社共同大会においては、彼等を置いて現わ
れに右翼的見解を、新に日和見主義として非協力的に闘いつつ、斗
争を通じて、全学連大会において、代々木の全学連破壊工
作と討殺するに、一定の政治的妥協を彼等との間に行つた。し
かし我々は、もはや彼等が、反スターリン主義、という旗をか、下
ているという理由で幻想を抱いてはならぬ。全学連大会、社共同大
会における討論から結論されることは、華共同が右翼的傾向を極
めた学生運動における右翼的潮流の代弁者としての位置に陥落したと
いうことである。更に更には社共同、左、右派反対派宣言、全
学連入事問題に示された如く、全学連を中心とした革命的學生運動
の攪乱者としての姿をあらわした事案である。我々は今も、代々木
共産党の専断的陰謀を粉砕するために、革命的學生運動の前進を
勝取る為にも、新に日和見主義、華共同に対して非協力的な闘い
をつづけ、すでにソヴィエト的存在になつてはいる彼らと最終的に学生
戦線から放逐しなければならぬ。

④トロツキー・ドスマティスムのオニの流派として回際主義共産党
(旧トロツキー・ドスマティスム)があるが、この一派はトロツキー・ドスマティスムの最
も回見的部分を極限まで発展させることによつてその感産を自ら
証明し、学生戦線に於いても最右翼に手を利運した。彼等はオ四回
大会で全学連大会決定に同意に従つて社会党への加入闘争をとり、
学生共産党は全学連大会青年部に入つて野合をなしとげ学生共産党に
もぐり込み、学生運動民主化協議会なるものを結成して社会党の
金を使つて学生の最も右翼的部分に権威して分裂活動に狂奔するに
至つた。だが、そのあまりにも徹底した至極主義と右翼戦線、全回

的政治斗争の否定は全学連大会において代々木派の支持が勝
ちとれた。何もわからぬ中回部分と二十学余と、たに寸やなか
つた。トロツキー・ドスマティスムの平取で回つて小々くほとま
つた。以上の如き諸流派の中で我々の不敵天の敵は代々木共産党であ
りて他にはない。我々はこの期間、各地で大衆斗争の先陣に立ち
ながら、この右翼日和見主義と非協力的に闘い、一四回大会に於
ては、学生運動のポリシエ・ソヴィエトの路線を貫いた。だが、我々は
華共同という猿轡物の存在により、いくつかの地獄で、時に、
京都、大阪、そして東京に於いて敗北を喫した事を知らねばなら
ぬ。我々にとつて明らかになることは、この代々木スターリン主義と
の斗争には、同盟の確立とした確立、その下での大衆斗争の展開
のみが勝利の保障であり、これなしに、即ち学生運動における完
全な勝利なしには、我々の世界革命のためのあらゆる活動も空論
に終るであらうことである。

代々木スターリン主義者連は今大会での追放に力を得て、六月
斗争を失敗(同盟にとつて失敗に)に終らせ、その上で既に腐
時大会を要求し、こので完全に転換することを策していることは
明白である。

六月の斗いは我々の全事業に決定的影響を及ぼすであらう。六
月の斗争を同盟の完全なヘゲモニーの下に全回で徹底的に展開す
ること、これこそが現在の我々の唯一の真摯の任務である。
そうしてそのために、その闘いの中に、全回的に同盟を確立せ
よ、これが闘いの勝利の遂行の唯一の保障である。
共産主義者同盟をあらゆる工場、学校、等々に組織せよ。

共産主義者同盟